

〔優秀賞〕

◇ 生きやすい社会へ ◇

犬伏東小学校 6年 高尾 直輝

「男女共同参画はどういう意味だろう」という疑問がありました。男女共同参画を調べてみると、性別に関わらずに、多様な活動が選択できる社会ということが分かりました。

しかし、今の日本は男女平等ではなく、いろいろな場面で男女の差があると思っています。例えば、家庭では、男性が料理をしたり、洗濯・掃除をしたり、子育てをしたりするのが少なく、女性が家の仕事を多く行っているのが現状です。最近では共働きの家庭も多いので、女性の負担が増えてきているように思います。また、男性でも育児休かが取れる会社が増えてきましたが、外国に比べると、日本ではまだ男性の取得率が低いそうです。インターネットで調べてみると、女性が80%以上なのに対し、男性はわずか約6%となっています。日本では、まだ男性が育児休かを取りやすい環境が整っていないようなので、今後は夫婦で協力して子育てや家事ができる環境が整ってほしいです。

昔の日本には、男性にしかできないと言われていた職業がありました。タクシードライバーや、パイロットなどです。でも、これらの職業も今では女性も活やくしています。反対に、女性ばかりの職業もありました。保育士や看護師です。ぼくが通っていた幼稚園でも男性の先生が数人いて、運動会や発表会時には重い荷物を運んだり、高い所の作業をしたりしていました。女性しかいなかった職場に男性が入っていくことで、プラスの面が多いように思います。以前は、家庭の中でも

男女の役割が決まっていたそうです。男性は外で仕事をして、女性が家事や育児をする。長い間、日本ではこのような考えがありました。しかし、今は仕事をしている女性も多く、家の中のことを分担している家庭もたくさんあると思います。男女がともに社会で活やくするには社会全体が整備されていくことも大切だと思います。例れば職場環境です。それぞれの生活に合わせた働き方ができたり、だれもが育児休かをとったりできたら、無理なく仕事を続けていくことができると思います。また、保育園や老人ホームなどのし設が整い、地域の支えんを受けられるようになることも大切です。性別が障害にならないような社会にしていくためにはどうすればいいのか、次のように考えました。それは一人一人の個性を大事にするということです。男性だから、女性だからと決めつけるのではなく、その人の特ちょうや優れた能力・技術に目を向けていくことが必要ではないでしょうか。

すべての人が一人の人間として能力を発きできる社会を目指し、おたがいを思い、認め合って、男女がともに夢や希望を実現できるようにするとよいと思います。これからの未来のために、ぼくに、どんなことができるか考えていきたいと思っています。